

第5期 第4回与謝野町子ども・子育て会議

会議報告書

日 時	令和4年9月26日(水) 午後7時30分から午後9時00分まで
会 場	元気館2階 視聴覚室
出席者	別添名簿のとおり(出席:10名 欠席:5名)
配布資料	◇会議資料:次第、資料1…つながりで笑顔を未来につむぐまち【出産と子育て】、資料2…加悦学童保育施設の移転概要
会議要点	◇議事 ➤ 第2次与謝野町総合計画・後期基本計画策定に係る意見聴取について ➤ その他 加悦学童保育施設の移転について(報告)
議事要旨	下記のとおり

1. 開会

2. 会長挨拶(要旨)

先日、行政評価委員の立場から、町の各種事業について、その効果、手法、財政支出等について、検証を行う事務事業評価に参加し、子育て応援課が所管する子育て支援センター運営事業、子育て世代包括支援センター事業等12事業の評価を行った。今後、評価に基づき事業運営の充実・改善等が行われることとなっている。

本日は、第2次与謝野町総合計画・後期基本計画策定に係る子ども・子育て会議からの意見聴取について及び加悦学童保育施設の移転についてが議題となっている。限られた時間ではありますが忌憚のない意見をお願いしたい。

3. 委嘱状交付

下川課長から、新委員4名へ委嘱状を交付(3名欠席)

自己紹介及び新委員への子ども・子育て会議概要を説明

4. 議事

第2次与謝野町総合計画・後期基本計画策定に係る意見聴取について…資料1

概要説明

与謝野町総合計画は、福祉分野、教育分野等、様々な事業分野の計画の大元になる町の最上位の計画であり、本年が、平成30年度から令和8年度まで9年間の計画の中間年にあたり、総合計画審議会において、現在計画案の見直しを行っている。

平成30年度に計画を策定したが、この間、コロナ感染症、円安、ウクライナ侵攻等、社会情勢が大きく

変化しており、社会情勢等を踏まえた上で、町の計画を見直すこととしている。

総合計画の7つの分野のうち、一つが子育て分野となっており、資料1分野4に出産と子育てに関する計画、取組の方針を掲げている。新たな命の誕生を応援、親子の笑顔の暮らしを応援、地域ぐるみの子育て力の向上、親と子の学び・育ちの場づくりという4つの柱のもとで、取組の方向性を示しているが、その進め方や改善点等について、皆さまの立場で感じること、この先考えていくべきこと等に対し意見をいただきたい。

また、前期基本計画策定時の課題のほか、与謝野町のまちづくりを進めてくる中で、新たに生まれてきた課題を認識しており、その解決策等についても次回会議で意見をいただきたい。

ワークショップ資料①の施策の見直しに向けた論点整理では、前期計画策定時の課題、課題解決のために取り組んだ施策、この4年間の成果について示している。安心して子供を産み育てられる環境構築としては、子育て世代包括支援センター、産後リフレッシュ事業等の開始、子育てサービスの充実では、認定こども園の開園、早朝保育、病児保育の実施、地域主体の子育てサービス開始については、京都府内でも珍しい取り組みも与謝野町では取り組んできているが、一方で、新たな課題も生まれてきており、方向性を見出していく中で、日ごろ感じていることを周りの方にも聞いていただきながら、与謝野町の計画見直しに反映する意見をいただきたい。

ワークショップ資料②まちづくりアンケート結果は、今年7月に2,000人の方々を対象にアンケートを実施し、600人強の方からの回答結果となっている。

与謝野町の気になるところでは、働く場が少ないことを町の課題として認識されている方が多い。

30年後を見据え特に力をいれるべき施策では、魅力ある働く場の創出を望む声が多い。

子育てに関する分野に関しては、他の分野に比べると満足・やや満足と回答された方が多く、子ども・子育て会議をはじめ、関係団体等のご協力・ご意見をもとに、様々な取り組みを行っていることが、一定評価いただいている部分であると考えている。また、仕事と子育ては密接につながる部分であり、多くの住民の声があることを踏まえながら意見を伺いたい。

よさのみらい会議でも、計画見直しに対する意見を聴く機会を継続的に設けているが、今後は小・中学校のPTA等、子育て世代の方が集まる場所へ出向き、いろいろな形で声を聴く機会づくりを考えている。なお、計画の見直しは今年度完成することとしている。

(意見)

新たな課題として、父親の育児休業取得率が低い、野田川の認定こども園整備等の5つの課題があるが、どこから抽出されたものなのか

(回答)

計画の見直しにあたり、平成30年度から令和3年度までの事業についての内部評価の結果から、企画財政課で課題を抽出したものである。

(意見)

利用者の声やアンケートの調査結果からの課題ではないという認識でよいのか。

(回答)

担当課の評価等の意見抽出しているが、まちづくりアンケートの声を反映したものではない。

(意見)

行政側が設定した課題であることを認識した。

次回、新たな施策、今の施策に足りない部分、他市町との比較等、後期基本計画の見直しに係る子ども・

子育て会議からの意見聴取をワークショップ形式により行うことと理解した。

(意見)

資料を事前に配布してほしい。

新たな課題の中で、子育て支援センターの利用者が減っているということだが、子どもの数が減っているのか、利用率が減っているのか。その背景は。

(回答)

利用者は、平成31年度では、約12,000人、令和2年度で9,000人弱、令和3年度では8,000人弱といった状況で推移しており、出生者も、令和2年度93人、令和3年度では90人と減少傾向にある。

令和元年度以前の出生者は100人を超えていたことから、コロナの影響もあるとは思いますが、出生率の低下が利用者が減少した一番大きな要因と考えている。

令和2年度からは、利用対象者を就園前児から就学前児に拡大、出産を控えた妊婦の方も利用していただけの環境に改善している。利用対象者の拡大は行っているが、出生数が回復しなければ今後も利用者は減少することが予想される。利用率については、次回会議資料でお示しする。

資料の事前配布についても、改善していきたい。

(意見)

支援センターの利用者が減っていることよりも、行かない、知らない、支援が必要なお母さんが増えている等、数字だけでなく内容や行政が認識する課題から、地域等それぞれ役割をされている方との連携が課題であると思う。

都市部では、子育てに関わる民間意識が高いことから、子ども・子育て会議では、事業に対してどのように民間等と連携させていくのか話し合う場である。意識のある住民の方が増えてきており、その方の役割として、誇りが持てるものを育てる場づくりができてくると子育てがしやすい環境になると思う。

(回答)

5つの課題については、事業の展開の中でピックアップされたものであり、町としては5つに限定しているものではない。課題は、案として認識していただきそれぞれの委員の立場から、地域や周りの反応等を含め、進めていく、改善していく点等について意見を伺うものである。

(回答)

課題は、意見がいただきやすいよう、行政が評価に基づいて設定したものであり捉われる必要はない。

子ども・子育て会議や他の会議体の意見を抽出・整理した上で、まとめることとしており、現状での課題認識に基づいて、充実・改善すべき事項への意見をいただきたい。

(意見)

よさの未来会議のワークショップでは、子育て支援の意見の他、子育ての一步手前に関する意見等もあった。次回のワークショップは、子育て支援に直接関係なくても、色々な角度から意見する場よい。

(意見)

事業の成果の中に示されていないが、子どもたちがやりたいことに対して補助支援するというプロジェクトがあったが、どういった事業・効果があったのか。

(回答)

1万円を上限に子どもたちの夢を支援をする「小中学生夢応援プロジェクト」という事業を一昨年度に実施した。コロナ禍において、制限を受ける子どもたちに、夢や希望をもってもらえるよう子どもたちを支援したい応援したいという思いの中で、国のコロナ支援交付金を活用し行った事業である。なお、本事業は、単発的な事業で

あり、成果からは割愛している。

(意見)

夢プロジェクトに関して、意識のある家庭だけが恩恵を受けるのではなくて、申請等を手伝う連携ができれば、苦手な保護者の子どもたちへの支援になる。子どもたちがやりたいことを応援するよいプロジェクトであり、継続事業であればフィードバックにより工夫もでき、未来につながる。

(意見)

今回の会議資料として、事業名、事業目的、効果等を示した資料があれば、子どもたちのために何をするのか、行政としての狙いがわかる。

次の会議の前に事務局の方から、資料の事前配布ができるか。

(回答)

事務事業評価シートを抜き出せば資料作成は可能である。

(意見)

それぞれの立場で、課題と感じていることを発言すればよい。

(意見)

子ども・子育て支援事業計画の P48 ページ以降の事業の取り組みを資料とし、その他にも事業があれば配布いただきたい。

(回答)

子ども・子育て支援事業計画の P48 ページ以降の事業を資料として配布する。その他、意見を伺いたい事業については、別資料として配布させていただく。

(意見)

新たな課題である子育ての新たな担い手の確保とはどういうことか。今までどのような担い手がいて、どのように不足しているのか。

(回答)

この分野に限らず、行政だけが担い手となってまちづくりをやっていくことは、既に限界がきている。子育て分野においては、法人、民間の方々の知恵や創意工夫によって、与謝野町の新しい担い手によるサービスが開始されており各分野において新たな担い手が求められる時代となっている。

(回答)

地域における子どもたちの安心・安全な居場所を確保し、子育て支援を行うキッズステーション事業では、地域等が子育て支援の担い手となっている。令和3年度に開始した、子育てに関する援助を受けたい方と、援助をしたい方の会員相互の協力により子育て支援を行うファミリーサポートセンター事業の会員についても、新たな子育ての担い手と認識している。

(意見)

行政だけで、すべての受け皿を担うのは難しく、団体等の協力を仰ぎながら、子どもの居場所を確保する目的で、事業が生まれていると理解した。

(意見)

子育て世代の方たちの満足度、何をしてほしいのか、困っていることなど、アンケートの数値があれば教えてほしい。

(回答)

子ども・子育て支援事業計画策定時にニーズ調査を行っており、次回会議資料で数字をお示しする。

(意見)

子育て支援センターについて、利用者が減っているのは出生数が減少していることと、3歳児からの保育料の無償化により、10ヶ月で子どもを保育所等に入れる方が増えたことも原因の一つだと感じている。以前であれば、支援センターを利用してから保育所・こども園に入園されていたが、10ヶ月から保育所・こども園に入園される方が増えている現状がある。

支援センターの現状は、コロナ禍ということもあり、出産も1人、里帰りもできない、両親にも来てもらえない状況から、不安や悩みを抱える利用者が増えている。また民生委員の赤ちゃん訪問事業についても、コロナ禍では、家の中でゆっくり話をすることもなく、玄関で話を伺うだけで、接点を持っていないという状況にあると聞いている。

センターでは指導員が、アンテナを張って利用者の状態を感じとり、不安や悩みについての相談、助言を行っており、支援センターを利用されない、行けない方には、子育て支援センターの存在を知っていただきたい。

(意見)

つながりで笑顔を未来につなぐまちにしていくには、裾野を広げて意見を聞いていく必要がある。

(意見)

産後リフレッシュ事業の内容は

(回答)

産後の育児が大変なお母さんにリフレッシュしてもらう事業であり、現在は、かや山の家を会場に実施している。助産師、保健師が色々な相談にのったり、子どもを預け、1人でゆっくりとお風呂に入ってもらえる内容となっている。リピート利用含め利用者も増えてきている。

(意見)

現在、行政の専門職だけで実施されているが、その事業に地域の方が参加されるなど、地域に暮らしている人とつながるきっかけとして、専門職以外の絡みもいれてほしい。他市町では、専門職のほか地域の方やお母さんがスタッフとして参加する取り組みがある。地域とのつながり、子育ての友達をつくっていける連携が子育ての場では大切である。

(回答)

子育て世代と地域とのつながりがない家庭が増えている。産後リフレッシュ事業については、育児中のお母さんにゆっくりとリフレッシュしていただく事業であるので、別の事業等で、お母さんと地域をつなげる事業を考えていきたい。

(意見)

子育て支援事業の場に、地域の方の役割を持たしていく多様性がこれからは必要になってくる。
地域の方が参加することにより、利用者とのつながりが生まれる。

(意見)

昨年度は52人、延べ80の方が、産後リフレッシュ事業を利用されたと伺っている。
送迎も利用でき、ゆっくりとリフレッシュしてもらえる設えで、直営で産後リフレッシュ事業が展開されている。

(意見)

キッズステーション事業の内容は

(回答)

地域における子どもたちの居場所をつくり、地域が子育て支援を行う事業となっている。現状、町内3カ所で実施されており、後野キッズステーションでは、毎週、水曜日に、地元へ外国人の方を講師に、小学生を対象

とした英会話教室を週1回実施されている。岩屋キッズステーションでは、学校の長期期間中に、出入り自由な学童保育の形で実施され、地域の方々による製作講座等も開催される等、地域の方々とのつながりも徐々に出来始めている。岩滝地域ではアドキッズステーションが学校の長期期間中に実施され、川や森遊び、山でのキッズステーションの開設等、体験型のキッズステーションとして実施いただいている。現状3カ所で実施されているが、10月以降、加悦地域で1ヶ所、冬休みには幾地区でもキッズステーションが開設される予定となっている。

(意見)

対象者は

(回答)

いずれも小学生を対象とし、各キッズステーションによって、学校区、地区等で対象を限定されている。

(意見)

まりづくりアンケート調査では、70代、60代、50代の回答率が多く占める中で、子育て世帯の方の意向がどれだけアンケート結果に反映されているのか、回答された方がどういったことを希望されているのかを教えてください。

(回答)

現在アンケート調査の年代別での集計をしており、15歳以上39歳以下の内容を抽出し次回会議にお示しする。

(意見)

学童保育の指導員の確保が課題となっているが

(回答)

月から金曜日まで運営し、平日は15時から18時30分、土曜日は1日開設、夏休みは、1ヶ月程度1日開設としており、働き方にとって、働きにくい条件となっている。運営は社協に委託しており、指導員確保にご努力いただいているが、マンパワーが足りない部分は、深刻な課題であると認識している。

(意見)

普通の勤務形態ではなく、また長期休暇になると1日といった条件であれば、どのような方が指導をされているのか。

(回答)

子育て世代の方には難しい時間帯の勤務となっており、子育てを終えられた方が中心となっている。

(意見)

年間を通して、人材確保が難しい状況なのか

(回答)

夏休みは1ヶ月間だけ1日勤務という条件になり、また利用される児童も多いことから、指導員がたくさん必要になる。基本的に勤務条件がレギュラーなことから、色々な方面で声をかけるが長期休暇期間等を含め1年間を通して、全体的に厳しいというのが実情である。

(意見)

子育ての新たな担い手の確保というところで、行政だけで担っていくのには限界があることは認識している。子育て、高齢者等その他分野についても、行政だけに頼ってはいけないと個人的には考えている。

つながりという部分が一番重要であると考えており、この会議体には、PTAをはじめ、この子育てに関係する団体等から組織されており、それぞれが単体でやるのではなく、連携しながらつながりのあるまちにしていけたらと感じている。

その他

加悦学童保育施設の移転について…資料 2

概要説明

加悦地域の小学校の再編に伴い、現状、加悦地域公民館大ホールにて、学童保育を実施している。今年度以降の加悦地域の学童保育施設を旧かやこども園へ移転し、遊戯室と保育室 2 部屋の 3 部屋を中心に運営をしたいと考えている。

エアコン、トイレ等、学童保育施設として使用するための必要整備を今年度中に行い、現在使用している加悦地域公民館の大ホールは、移転後に地域の方が使用できるよう復元していきたいと考えている。

主な工事内容は、遊戯室の改修、保育室の改修、便所の改修、下足室の整備、非常灯・誘導灯の改修、屋外遊具の撤去及び加悦地域公民館大ホールの復元工事となる。

工期については、令和 4 年 9 月下旬から既にスタートしており、年内には完了したいが、コロナ関係で建築資材が調達できない場合等は延期することもある。

予算額は、2,200 万円となっている。

主な工事は、学童保育の活動部屋となる遊戯室へエアコンを設置となり、ランドセル置き場は、現在加悦学童保育で使用しているものを移設することとしている。

補完的に使用する部屋は、大きな改修は行わないが、現在使用している畳の移設や、不要な家具の撤去、洗濯機置き場の整備をしていきたい。

トイレについては、現状の男女共同トイレを 3 つのスペースに区切り、男子、女子、多目的トイレを設けることとしている。

次回会議日程

10/26 (水) 19:30～ 加悦保健センター

5. 閉会